

桜美林大学の実践事例

THE × Benesse
第2回大学改革カンファレンス2017
THE世界大学ランキング

畑 山 浩 昭
（桜美林大学副学長）

報告の内容

1. THE 世界大学ランキング日本版2017の結果について
2. 桜美林大学の概要と教育研究の取り組みの紹介
3. 大学としての今後の課題
4. THE 世界大学ランキング日本版への期待

桜美林大学の結果

総合順位	総合スコア
111 — 120	44.1 — 46.2

分野 (Pillars)	項目 (Metrics)	割合 (%)		スコア Pillars	順位 Rank
		Metrics	Pillars		
教育リソース Resources	学生一人あたりの資金	10	38	—	—
	学生一人あたりの教員数	8			
	教員一人あたりの論文数・被引用回数	7			
	大学合格者の学力	6			
	教員一人あたりの競争的資金獲得数	7			
教育満足度 Engagement	高校教員の評判調査：グローバル人材育成の重視	13	26	77.0	62
	高校教員の評判調査：入学後の能力伸長	13			
教育成果 Outcomes	企業人事の評判調査	7	20	—	—
	研究者の評判調査	13			
国際性 Environment	外国人学生比率	8	16	67.9	30
	外国人教員比率	8			

創立者
清水安三

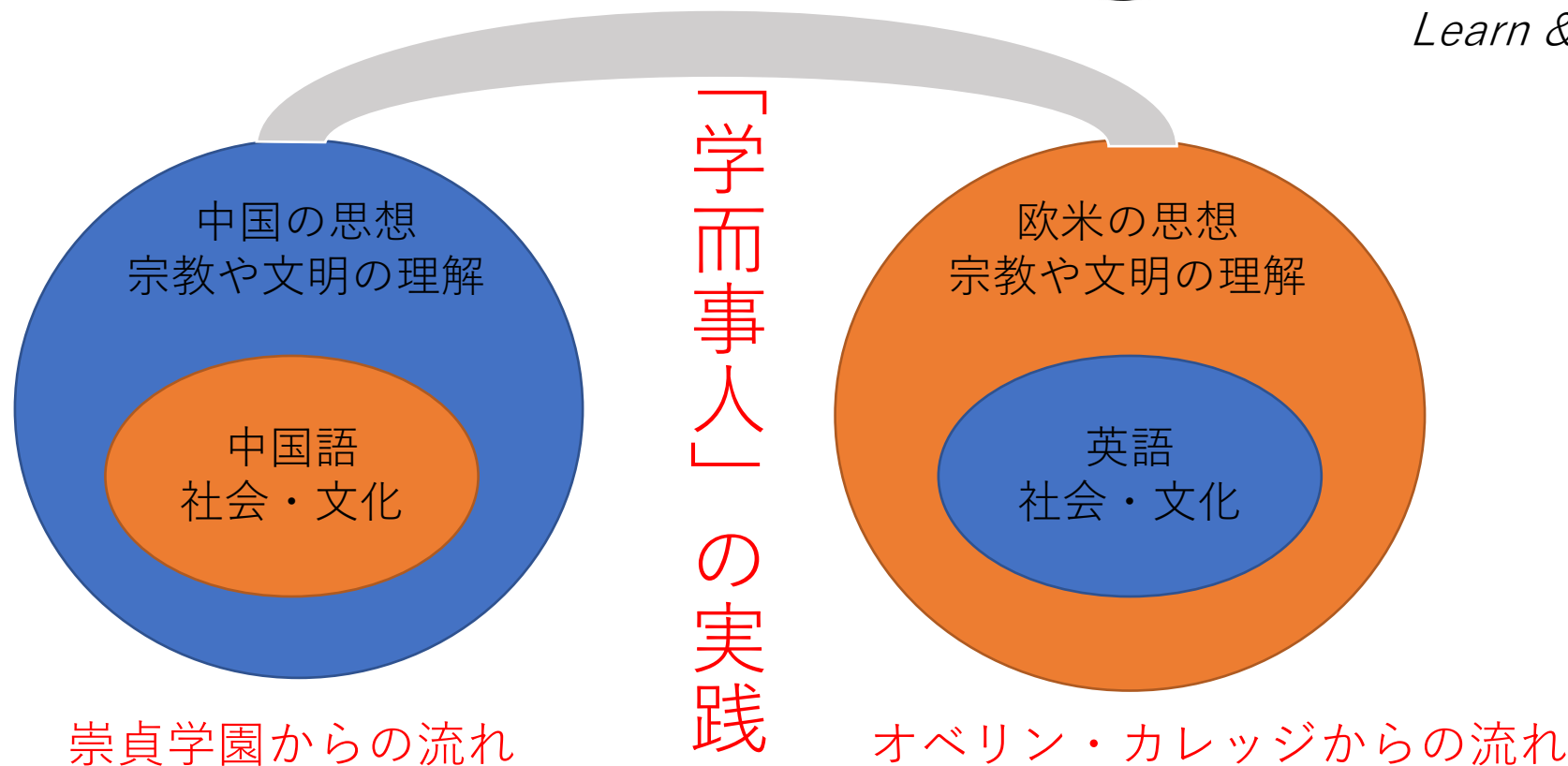


桜美林創立

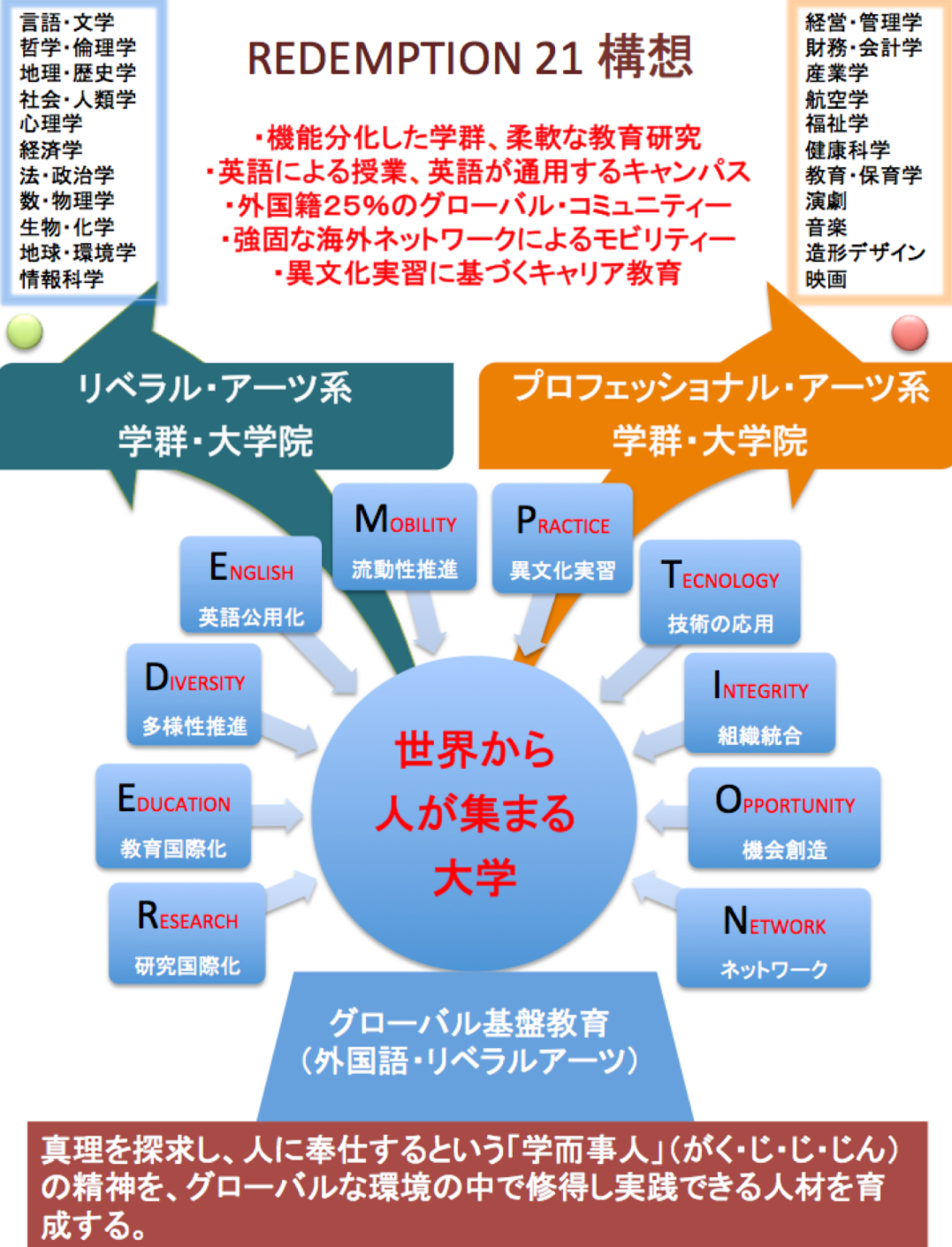


フランスの牧師・教育者
ジャン・フレデリック・オベリン

Learn & Labor



キリスト教主義に基づく国際的な人物の育成
学而事人（がくじじじん）：学んで人に事える



STRATEGY

質的發展

- ・ しっかりしたガバナンス
- ・ 財務基盤が強い大学
- ・ 国際的なキャンパス
- ・ 安全、安心なキャンパス
- ・ 地域や市民に開かれた大学
- ・ 優秀な学生を確保するアドミッション
- ・ グローバル化に対応できる教職員
- ・ カリキュラムの国際的な認知度と評価
- ・ 国際的なキャリア開発支援
- ・ 積極的な社会貢献
- ・ キリスト教精神に基づく態度や行動
- ・ センスあるメディアミックス

「学而事人」と「グローバル教育」

世界から
人が集まる
学びの場

- ・ 留学生数
- ・ 海外留学経験者数
- ・ サービスラーニング参加者数
- ・ ボランティア活動参加者数
- ・ 外国語試験点数
- ・ 英語によるプログラム数
- ・ 大学院進学者数
- ・ 外国籍教職員数
- ・ 学位取得者数、海外大学学位取得者数
- ・ 英語論文発表数
- ・ 生涯学習プログラム受講者数
- ・ 同窓会、後援会各種イベント参加者数
- ・ 寄付金総額
- ・ 志願者数

量的發展

J. F. Oberlin University (大学)

建学の精神：キリスト教主義に基づく国際的な人物の育成、学而事人（がく・じ・じ・じん）

College of Liberal Arts and Sciences（リベラルアーツ学群）

人文・社会・自然・学際総合学群（入定950 / 収定3800）

College of Global Communications（グローバルコミュニケーション学群）

英語、中国語、日本語を外国語学の基礎とするグローバルリーダーシップ教育（入定250 / 収定1000）

College of Visual and Performing Arts（芸術文化学群）

音楽、ビジュアルアーツ、演劇、ダンスの専門教育と総合文化学（入定400 / 収定1600）

College of Business Management（ビジネスマネジメント学群）

産業研究とマネジメント学の融合学、及び、航空学（入定480 / 収定1920）

College of Health and Social Welfare（健康福祉学群）

福祉、保育、健康、スポーツのサイエンス（入定300 / 収定1200）

Graduate School（大学院 7 研究科）

国際学、言語教育学、経営学、心理学、老年学、大学アドミニストレーション（通学・通信）（入定213）

Other Schools（その他の教育組織）：日本語別科、孔子学院（中国語特別課程）

ランクインした指標に関する取り組み

教育満足度（教育への期待の実現）

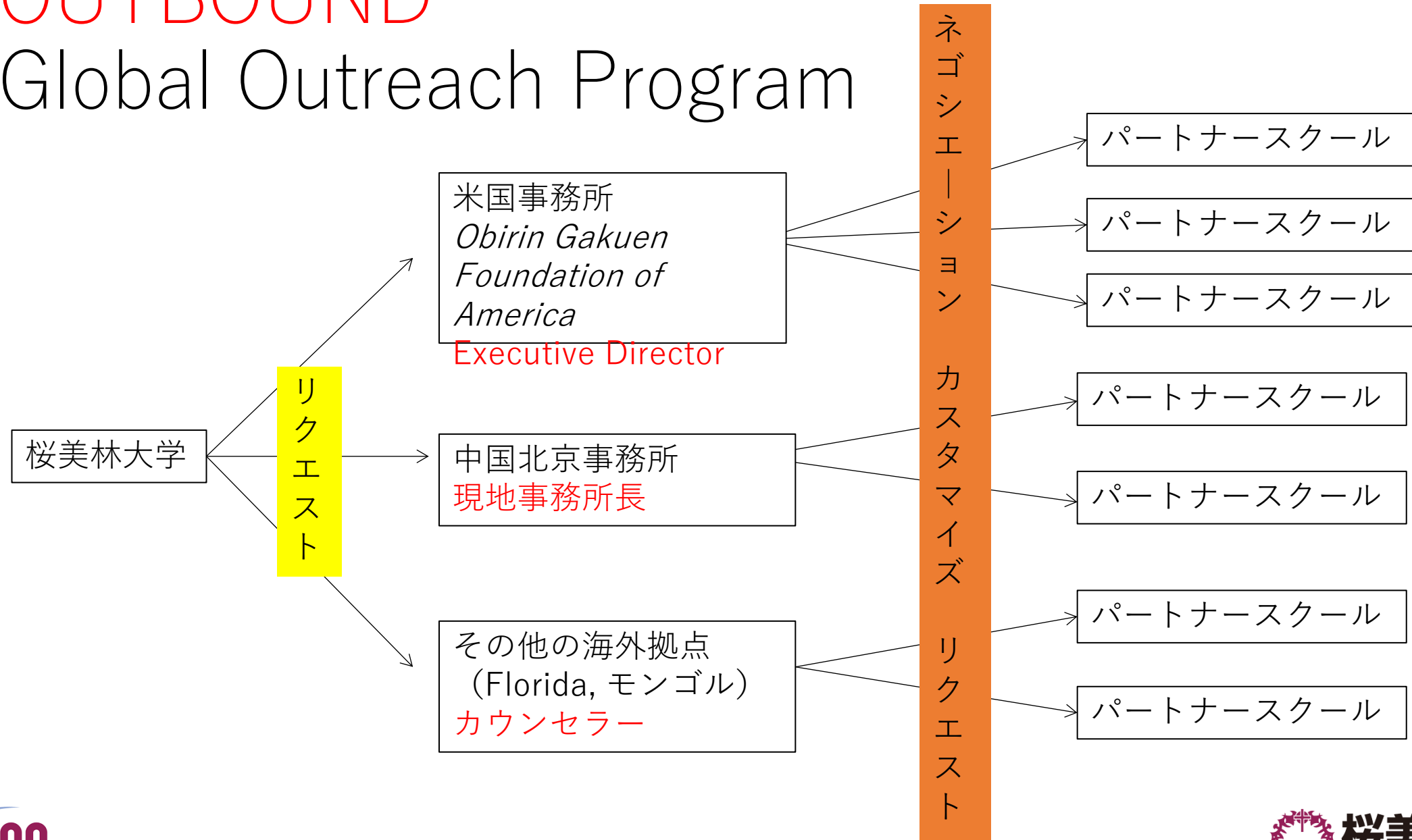
- **グローバル人材育成の重視（高校教員の評判調査）**
 - グローバル人材育成のための奨学金制度
 - 語学プログラム
 - 留学プログラム（短期・長期）
 - 留学生とともに学ぶ機会の創出
 - 海外拠点
- **入学後の能力伸長（高校教員の評判調査）**
 - 各種アドバイザー制度：入学初期、アカデミック、キャリア
 - GPAの活用：履修単位制限、各種勧告や面談、早期卒業
 - Late Specialization：専攻をあとで決定、専攻や専修の組み合わせ
 - 学群制：専門と教養を両立、隣接領域の科目群、自由選択履修
 - 高大連携事業

国際性（国際的な教育環境づくり）

- **外国人学生比率**
 - 日本語別科設置
 - 海外現地入試
 - 入学後の日本語強化プログラム
 - 英語や中国語による授業
 - 英語による学位プログラム
- **外国人教員比率**
 - 外国語教育を担当する外国籍の教員
 - 専攻科目を日本語で教える外国籍の教員
 - 専攻科目を英語や中国語で教える外国籍の教員

OUTBOUND

Global Outreach Program



INBOUND

Reconnaissance Japan Program

学群の科目群

日本語科目
(基盤教育院)

日本地域研究科目
(リベラルアーツ学群)

マネジメント系科目
(ビジネスマネジメント学群)

ドラマ研究科目
(芸術文化学群)

グローバルスタディーズ系科目
(グローバルコミュニケーション学群)

学群の科目を組み合わせでプログラム化

RECONNAISSANCE JAPAN (英語)

日本語、文学・文化、歴史、
芸術、社会、経済、政治、
国際関係

考察日本 (中国語)

日本語、文学・文化、歴史
芸術、社会、経済、政治、
国際関係

Japanese Culture & Business Studies

短期プログラム (英語)
日本語、社会文化、ビジネス

留学生向け
プログラム

学修支援 学群制とLate Specialization：リベラルアーツ学群の場合

大学院																		
Level 400																		
Level 300																		
Level 200																		
Level 100																		
Discipline s	哲学	言語学	文学	歴史学	〇〇学	〇〇学	社会学	経済学	政治学	心理学	〇〇学	〇〇学	数学	物理学	生物学	化学	〇〇学	〇〇学
分野	人文科学						社会科学						自然科学					

	哲学、言語学、文学、歴史学など
	社会学、経済学、政治学、心理学など
	数学、物理学、生物学、科学など
	国際関係、地域研究、コミュニケーション学など
	環境学、情報社会学など

- ・興味関心を明らかにしたアドミッション、または、入学後に専攻を決めることができる柔軟なシステム
- ・ディシプリンに基づく伝統的な縦構造の学びの体系、ディシプリンを横断的に組み合わせた現代的、学際的な学びの体系
- ・ディシプリンごとに異なる対象や方法、広く、深く履修させる学び
- ・法令、認証評価への対応
- ・社会に対する明確な学びの説明

ランク外から推測できる本学の主な課題

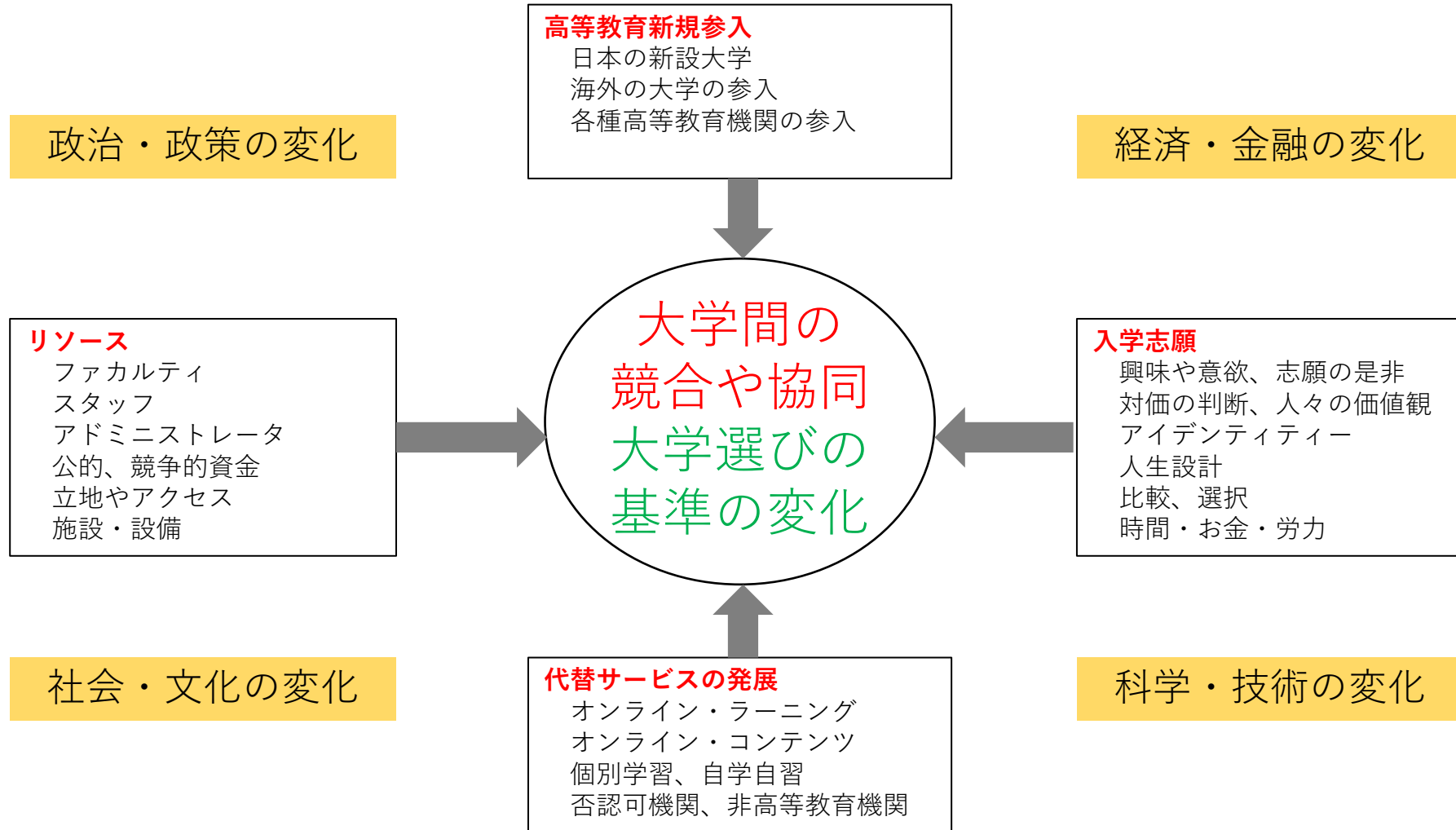
- グローバル教育の実践に還元できる**研究力**の質的向上
- 建学の精神に沿った**理系教育**や**実学教育**の強化
- **グローバル環境構築**のためのさらなる取り組み（国家、民族、言語、文化、社会等に基づく異なる価値観が混在し、理解を促し、相違を超えて協働を学べる学修環境）

PEST分析や
SWOT分析等
による精査



改革の一環として、
ランキング
指標への対応

THE大学ランキング日本版に期待すること



THE大学ランキング日本版に期待すること

大学の本質や機能を問い直し、新しい指標や基準から大学を変える

- 大学の公共性、社会性に基づき、様々な期待に応える（進学率の向上による大衆化、グローバル化、質の保証、社会人の受け入れ、留学生の受け入れ、公的資金の投入など）
- 関係者の多様な期待に応える（保護者、高校の先生、高校生や社会人、留学生、大学教職員、企業や団体などの視点から大学を捉えなおす）
- 「研究」による貢献、「教育」による貢献という大学への期待に応える

ランキングという形式が、大学の内容を変えていく

ありがとうございました

